

# 授業改善書

科目名	英語 I
担当者	大山健一

## 授業の概要

1年次必修科目の春期（前期）科目であった。全15回の期間、対面授業であった。指定テキストに準拠し、文法・語法の確認・解説、英語会話の聞き取り問題、読解問題などを取り上げた。評価方法としては、日々の課題提出状況、最終課題の正答数、授業態度などから総合的に判断した。

## 授業の問題点

前年度と同様の問題点として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、ペア・グループ活動にある程度の制限が必要となってしまった。文字（読む・書く）に関する活動は可能であるが、音声（聞く・話す）に関する活動は感染リスクの可能性を鑑み、聞く活動のみをメインとした。その結果、「質問や発言」が3以下というアンケート結果になり、4を超えていないことから、発音指導が求められていたと考えられる。

## 学生の授業満足度

前年度と同様に、アンケート結果から学生の授業満足度は4を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。今期に関しては、自由記述の回答から、「英語は苦手でしたが、友達と話し合っただけで答えを出せたのは自分なりにためになった点」「面談をすることによって、一対一で話し合えることが良いと思った点」が満足度に繋がったと考えられる。

## 授業改善の課題と方策

前年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策においても、音声活動は必要であるため、その中で如何にして話す活動を取り向くべきかを検討する必要がある。特に「英会話」「英語コミュニケーション」などの活動重視科目において、どのような対応がされ、授業が実施されているのかという情報の共有が必要不可欠であると考えられた。

## その他

FD活動の一環として、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、オンライン授業において話す活動をどのように実施し、評価するのかを検討する必要があると考えられる。

AとBとのグループ分けも可能であったが、教室の収容人数から合同で実施した。対面授業の利点を意識し、アクティブ・ラーニングを可能な限り実施しつつ、特に大学1年生ということから学生同士のふれ合いや対教師への関係性を構築、面談による英語学習へのアドバイスを実施する必要があると考えられた。一方で、定期試験ではなく、最終課題を課すことを実施し、毎回の対面授業が負担にならないように配慮した。

# 授業改善書

科目名	初等教科教育法（英語）
担当者	大山健一

## 授業の概要

3年次必修科目の春期（前期）科目であった。AとBとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。教科書を基に、小学校の教育実習の準備を目標とした。評価方法としては、発表、模擬授業・指導案、日々の課題提出状況、授業態度などから総合的に判断した。

## 授業の問題点

授業は、教科書の内容を基に、対面授業においては、グループ発表を実施した。一方で、オンライン授業においては、グループ発表を聞いてのディスカッションに答えるもの、または教科書の内容を纏めるものを実施した。グループ発表においては、レジュメを作成した上での発表のため、見るだけで確認が可能であった。その結果、「ノートやメモを取る」が4を超えていないことから、オンライン授業でも対面授業でも板書を写すものが求められていたと考えられる。

## 学生の授業満足度

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、AとBとのグループ分けとなり、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となった。アンケート結果から学生の授業満足度は4を超えているため、高い結果になったと考えられる。授業内容と全体的な振り返りがアンケート項目になっていたが、具体的に何であったのかが判明できないため、項目の細分化が必要かと思われた。

## 授業改善の課題と方策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、AとBとのグループ分けとなった場合、隔週でオンライン授業と対面授業とのハイブリット授業となるため、如何にしてオンライン授業と対面授業とのバランスを確保できるかが課題として挙げられると考えられた。

## その他

PC教室の収容人数から、AとBとのグループ分けとなったが、学生一人ひとりへの指導が細かく行き渡っていなかったと実感している。理由として挙げられるのは、3年次必修科目のためか、履修学生が多く、学生からの質問に答える程度の指導になりやすかったためである。また、模擬授業の実施が最終目標であっても、その模擬授業をするための事前知識を身に付けさせるための時間が多く必要であった。これら2点の理由から、教科書の内容を理解させた後の模擬授業となるため、模擬授業のフィードバックの時間をどのように確保するのかを検討しなくてはならない。

2年次選択科目に「子ども英語」が設置されているが、大半の学生は同一曜日・時限に必修科目が設定されていることから履修が不可能のようである。そのため、模擬授業をするための英語力を習得させる機会をどのタイミングで設けるのかが早急の課題であると考えられる。